



中日病院 名古
屋市中区丸の内3
の12の3。☎052
(961) 2491

現在では、全国の約千施設で年間385万人が受診する人間ドックですが、元をたどれば日本発祥であることをご存じですか？ 戦後復興期の1954（昭和29）年に、国立東京第一病院と聖路加国際病院に世界最初の人間ドックが産声を上げてから今年で69年になります。

とはいえ「人間ドック」という名称が世に出たのは、38（昭和13）年のことでした。民政党の代議士の桜内幸雄と俵孫一が1週間ほど入院し、健康チェックのための検査を受けた際、病気で入院したのではないかと勘繰るメディアに対して、こう説明しました。「あたかも航海を終えた船が港に帰ってドックに入り船底についた貝を落とし、エンジンその他の点検をし、補修を加えることになぞらえて、企業戦士も時には体の点検をしようというふうなもの

人間ドックは日本オリジナルな文化

だ」。これを受け、メディアが翌日の朝刊で名づけたのが「人間ドック」だったということです。

54年に最初の人間ドックができて以降、この健康チェックの取り組みはすぐに経済界トップの間に広まり、日本国中の病院が人間ドックを開設していきました。

当初は1泊人間ドックが主流でしたが、検査機器の進歩とともに検査時間短縮が可能となり、1日人間ドックに取って代わるようになりました。その後、一般社団法人日本病院会が日本人間ドック学会を主催。人間ドックは順調に発展し、市民権を得て「人間ドック」なる名称も日本の百科事典に収載されるようになり、アジアをはじめ海外にも浸透するようになってきています。

（健診センター長・野村史郎）



年385万人受診 世界へ広がる